



10億倍 (1,700,000km)



「噂に聞いてたここが私たちと唯一子作りできる種族が住んでる星、地球よ。」

「お、思ったより小さいのね。最小サイズになってもこの差なんて…。」

「さあ、早く選びなさい。この大きさ保つの大変なんだから」

「そんなこと言われても多すぎて決めきれないよ」

「もう、それだったら乳首に吸い付く変態さん達と子作りしちゃえばいいじゃん」

「や、やめてよ!?私だってちゃんと好きな人とやりたいし…。あっ……。」



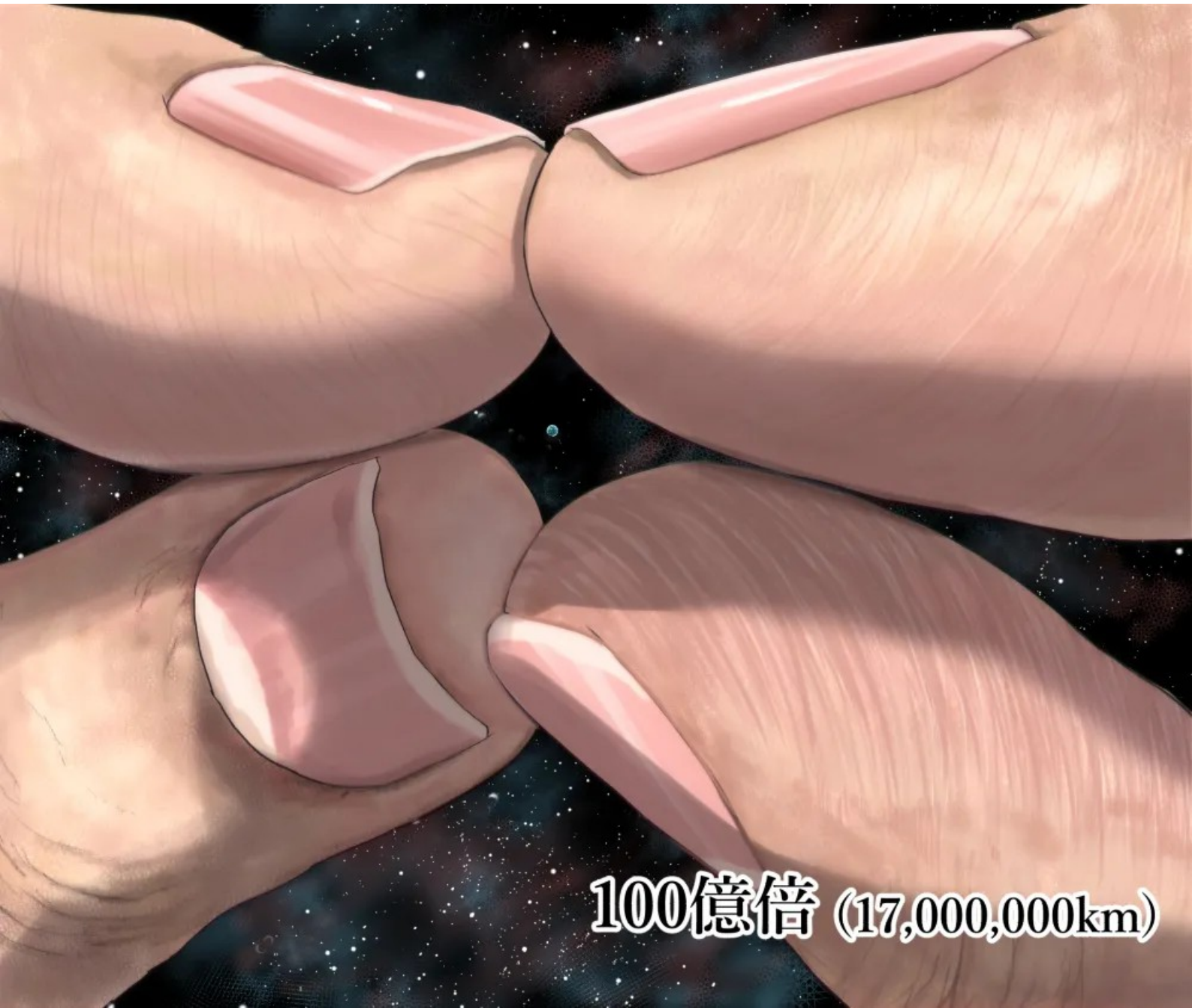


「駄目ね興奮してきたら縮小状態がだんだん弱くなってきたわ」

「元の大きさに戻る前できることやらない？このぐらい小さい方ができることもあるだろうし…。」

「だったら地球の男たちに私たちのキスの味を教えてあげようか。」

「それいい！これだけ小さくなってればたぶん全滅しないと思うし、生き残った男の人なら体力もあるからいっぱい耳もできるだろうし」

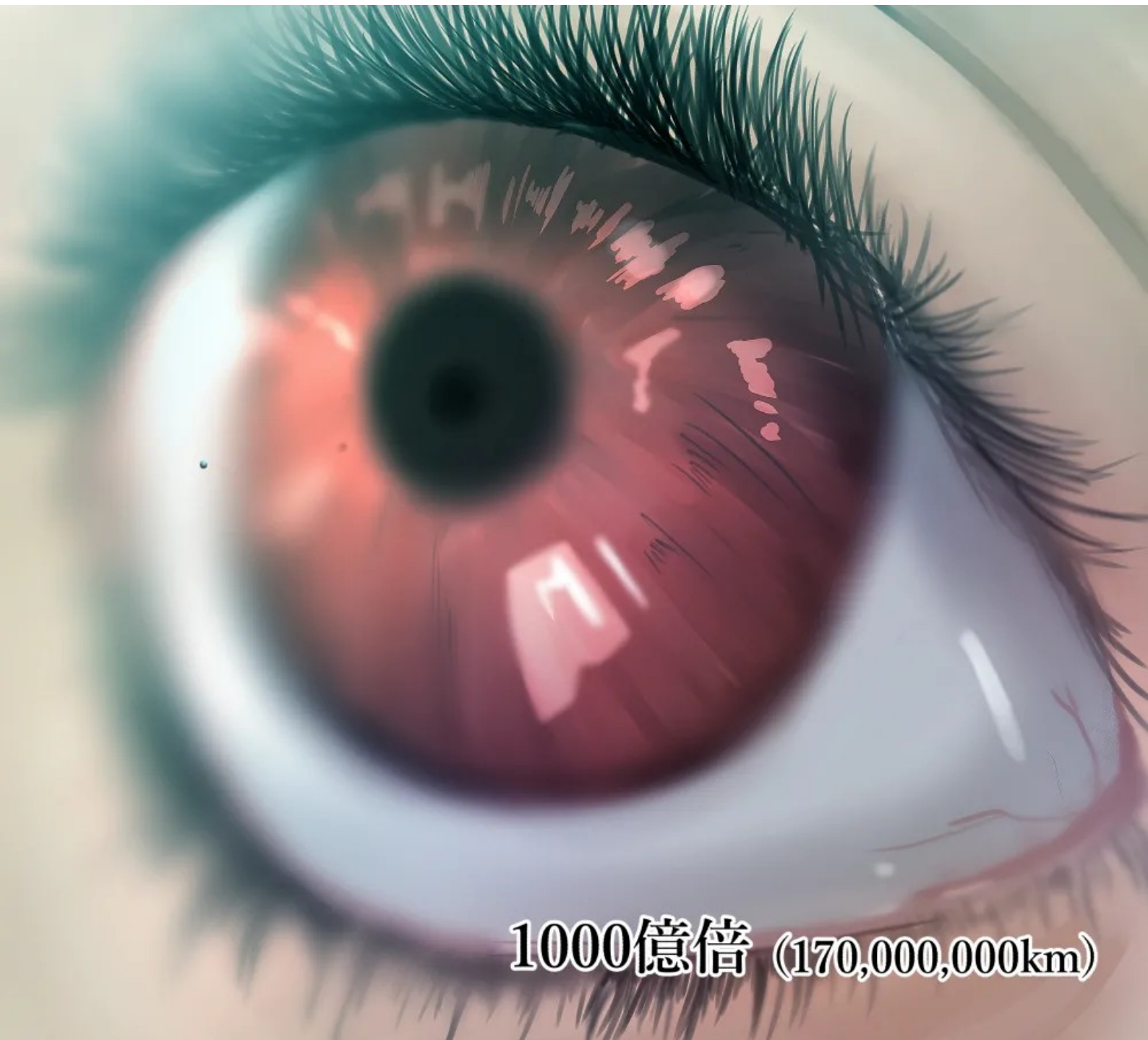


100億倍 (17,000,000km)

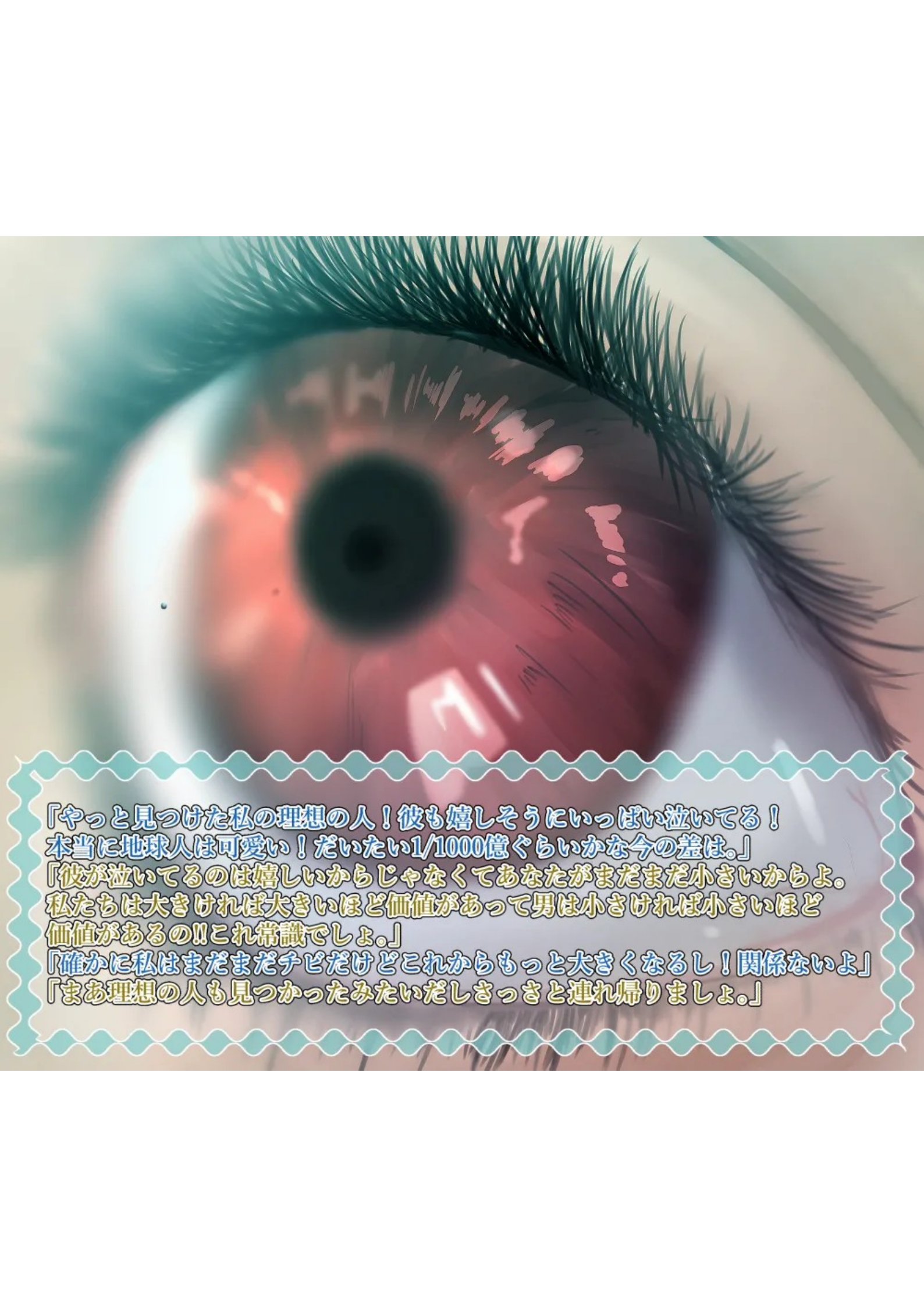


「ハア…。ハア……。久々に男を見たら興奮が収まらないわ。  
地球ごと犯したくなってきた……。」

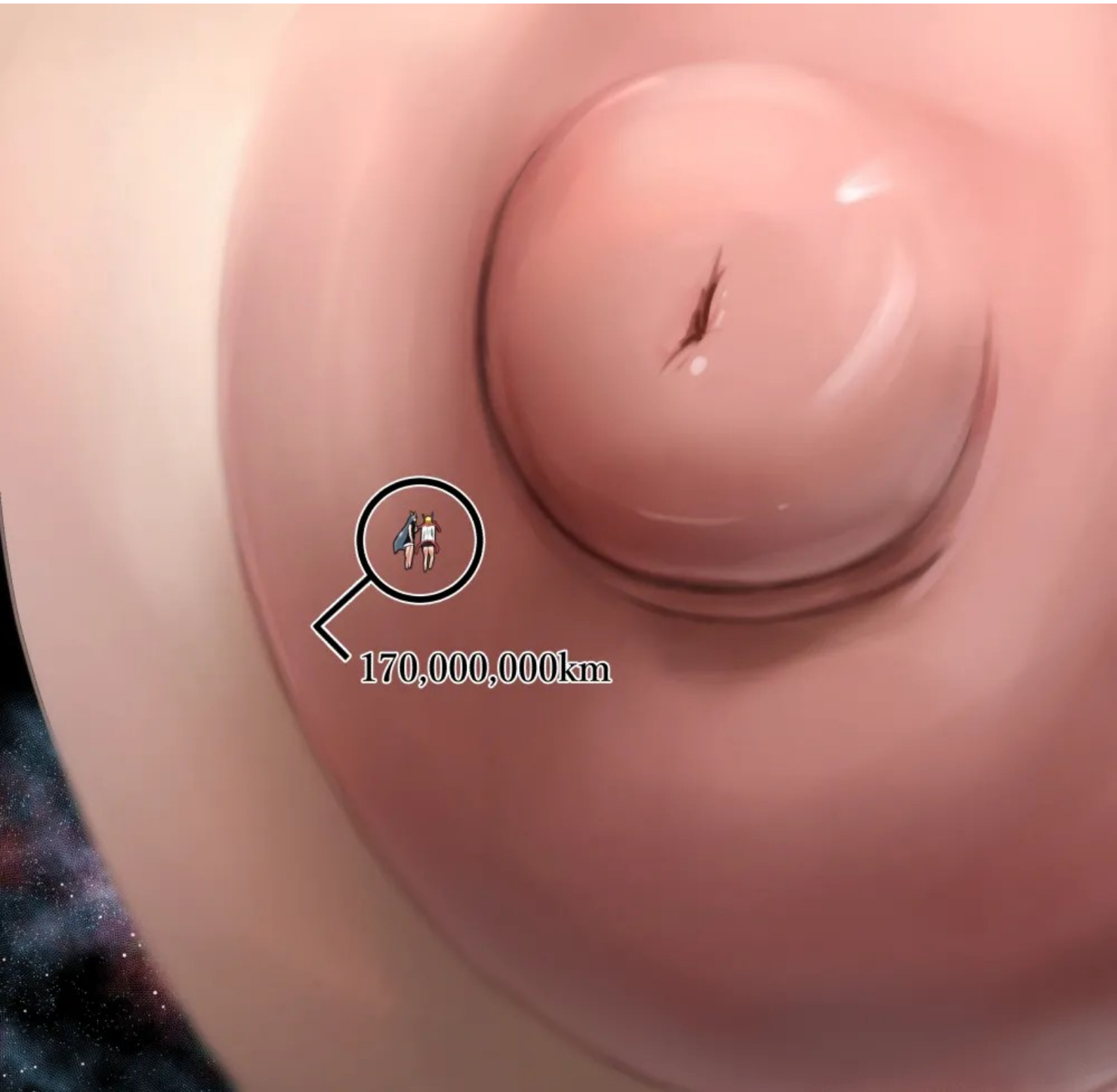
「ちょっとやめてよ!?私の旦那様を探すのが目的なんだから。。  
でも気持ちは分かる。こうやって指の間に入れても小さすぎる地球。。  
そしてその地球よりも遥かに小さい小さい男の人たち……。  
かわいすぎなんだけど……。早く旦那様したい」



1000億倍 (170,000,000km)



「やっと見つけた私の理想の人！彼も嬉しそうにいっぱい泣いてる！  
本当に地球人は可愛い！だいたい1/1000億ぐらいかな今の差は。」  
「彼が泣いてるのは嬉しいからじゃなくてあなたがまだまだ小さいからよ。  
私たちは大きければ大きいほど価値があって男は小さければ小さいほど  
価値があるの!!これ常識でしょ。」  
「確かに私はまだまだチビだけどこれからもっと大きくなるし！関係ないよ」  
「まあ理想の人も見つかったみたいだしさっさと連れ帰りましょ。」



170,000,000km



「ちょっとあんた達そこで何しているの!?!」

「えっ!? まずい先輩がきた。でもどうして……。」

「そ、その私の旦那様を探しに地球に……。」

「旦那様? ちょっと私にも見せていただけませんかしら。」

「は、はい……。」

(奪い取られたらどうしよう……。)



100兆倍 (180,000,000,000km)



「と、この方は……………」

「?」「?」

「私が今日まで我慢してやっと犯そ…、じゃなくて告白しようと思っていた方じゃありませんか!?私はまだ小さいと思い我慢してたのに今のあなた如きの大きさと旦那様にするなんて失礼極まりないです。」

「で、ですが私が先にもらったんですから、絶対に渡しません!!!」

「あなたそんなこと言ってどうなるかわかっているんでしょうね？」

「帰ったら私の同級生達からパイズリの刑ですからね!!!」

「もちろんとなりのあなたも同罪です!!!」

「うっ…。」(あまりの威圧感に言葉がでないわ…。)

「ちなみに教えといてあげるけど今の私は通常の1/1000のですからパイズリされて生きてるとおもわないことですね。」